



大豆凶作



無農薬の手前味噌が今年は出来ない。十数年の実績の中で初めての事。シカの食害に加え夏の異常高温が原因らしい。隣の花豆も同様だった。プロの農家でさえエダマメが出荷出来なかったと聞くとあきらめもつくが、異常気象がすでに平常になった現実をあらためて痛感する。温暖化対策とともに気候変動に耐える品種探しと、更には品種作りが必要だと感じた大豆凶作であった。 [一色達郎]

軽井沢の四季彩便り 54



『ツルウメモドキ』 写真・文 渡辺 久義(会員)

蔓に咲く梅は世にも珍しい！と思いきや緑色で梅と非なる花。「あなたは本当に梅の偽物ですか？」『俺は正真正銘のツルウメモドキ。ただ人が勝手に呼んでるだけ。ちなみに俺と似ているのはウメモドキの実だ』『という事はツルウメモドキモドキが正しい名前か。でも偽物の偽物。もはや何を正しいと言うのか？』軽井沢では秋になると道沿いなどで良く見られ冬には鳥たちが「ウメ～」と美味しく頂いています。お後が宜しいようで。

軽井沢サクラソウ会議

記録&予定 《記録○(1月～2月) 予定●(3月～4月)》

2月～4月

- 1月16日(金) 軽井沢町環境ネットワーク参加
- 2月4日(水) 町RDB策定調査会議
- 2月7日(土) 長野県「信州さずなフォーラム」
- 2月12日(木) 植物標本事始め⑦
- 2月13日(金) 定例会・ミニ講座
- 3月12日(木) 13:30～ 植物標本事始め⑧
- 3月13日(金) 13:30～ 定例会・ミニ講座

- 3月18日(水) 時間未定
軽井沢町環境ネットワーク主催講演会
- 4月9日(木) 13:30～ 植物標本事始め⑨
- 4月10日(金) 13:30～ 植物標本事始め⑨
モニタリング1000里地調査①
14:00～ 定例会・ミニ講座
- 4月17日(金) 時間未定 環境ネットワーク総会

CONTENTS

- 1 巻頭言／『軽井沢の四季彩便り』54 / 記録&予定
- 2 「野の花さんぽ」2025年のまとめ
- 3 標本の会 /
2025年「モニタリング1000里調査」を振り返って
- 4.5 「谷津ミュージアム」視察
- 6 植物標本事始め①
- 7 農と草 農業体験と言う名の自然観察会をやってみた③
- 8 コラム上発地昔物語⑦ / 事務局から

「野の花さんぽ」2025年のまとめ

「野の花さんぽ」はタリアセン塩沢湖畔を中心に2018年から来訪者とともにしている観察会で、それぞれの目で自然観察（植物名を当てる事とは異なり、詳しく観察する視点を重視）をする楽しい活動。複数の目で見ることで新しい発見もある。

講師役・サブは、日本自然保護協会の「自然観察指導員」(*)のうち2名が持ち回りで担当。また、今年度からタリアセンの河辺穂奈美さんが毎回同行してくださりサポート以上の援助を頂いた。この場を借りて感謝を伝えさせていただきます。

2025年度は4回実施。

(最終回10月は雨天中止となり幻に終わった)

5月11日(日)

講師役：伊藤恵子

サブ：伊藤良則 参加者10名

■塩沢湖の成り立ちとタリアセンへの変遷 (ボードによる説明)

■泥川周囲の湿性環境と植物の関係

サクラソウと昆虫 (クイズ)

サクラソウ・ニリンソウ・ツルカメバソウ・
ルリソウ・セントウソウ・ニッコウネコノメ・
オオコガネネコノメ

7月12日(土)

講師役：カトラーめぐみ

サブ：伊賀富美子 参加者9名

■ルーペを使用した植物観察 (体験)

■台風被害の崖の遷移

樹木：ナツツバキ・オニヒョウタンボク・
ハシバミ・ツノハシバミ・ムラサキシキブ・
マタタビ・ハリエンジュ

草本：オトコエシ・ヒヨドリバナ・ネジバナ・



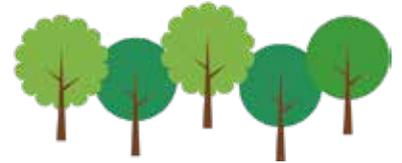
ミゾソバの標本



ミゾソバの花



ミゾソバの閉鎖花



ヒメジョオン・ハエドクソウ・シデシヤジン・
チダケサシ・キツネノボタン・ダイコンソウ・
ツリガネニンジン

8月9日(土)

講師役：須永久

サブ：カトラーめぐみ 参加者8名

■フシグロセンノウの花の構造をルーペで観察 名前の由来 (ボード使用)

フシグロセンノウ・オオハンゴウソウ・キキョウ・
ツノハシバミ (実)・ネジバナ・ハンゴンソウ

9月13日(土)

講師役：伊藤良則

サブ：伊藤恵子 参加者6名

■塩沢湖の成り立ち

アケボノソウの蜜と昆虫 (説明・クイズ)

サラシナショウマの種類 (説明・クイズ)

キバナアキギリの花の構造の秘密 (花粉と
マルハナバチ)

アケボノソウ・サラシナショウマ・

キバナアキギリ・シラネセンキュウ・ミズヒキ・

オトコエシ・ナガミノツルケマン・ミゾソバ・

ツリフソウ・ユウガギク・ゴマナ・

コシオガマ (参加者が発見!)・トネアザミ

10月11日(土) 雨天のため中止

講師役：伊藤恵子

サブ：カトラーめぐみ 参加希望者6名

■予定したテーマ

ミゾソバ(**)の閉鎖花の観察 (タリアセンの
許可を得て前日掘り取ったミゾソバの観察)

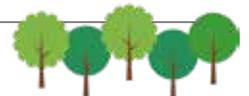
■ノギクの鑑別 (鑑別表)

[伊藤恵子]

*自然観察指導員講習会を受講・修了し、登録申請すると自然観察指導員に登録できる。

**ミゾソバ (溝蕎麦)

タデ科タデ属に*分類される一年草で、北海道から九州までの湿地、特に稲作地帯の用水路の脇など水が豊かな場所に群生するソバ (タデ科ソバ属) に似た植物。8~10月に白または淡紅色の花 (実際には萼) を茎先につけ虫たちの媒介で受粉し種子を作る (開放花)。できた種子は水鳥などのお腹に入りフンと一緒に排出され、新たな土地で仲間を増やす。一方、地中の地下茎の先端にも花がつく (閉鎖花による自家受粉)。親の育った土地で確実に子孫を増やすことができるしくみ。ミゾソバの実は、昔飢饉の時の救荒食として利用された。



2026.1/8 標本の会

軽井沢タリアセンで採りためていた植物標本のうち台紙に張り付けが終わっていた数は60枚。塩沢湖に里山の自然が残っているという証拠になりそう。みなさんに完成標本を見ていただきました！



《参加者の感想》敬称略

河辺 草本標本で、今年見なかったのがいくつかあった。今年は樹木をがんばって調べたい。

阪本佐（今年の調査で発見した）「あのホタルサイコ！」が標本になっていた。実際に標本を見ながら丁寧に説明してくださり、とても勉強になりました。12年前の標本がとても美しい状態で保管されており感動しました。今の植物を残す大切さを感じました。

平田 きれいな標本を見られて幸せでした。私た

ちも佐久市大沢でモニ1000調査をしているのですが、標本はつくっていませんでした。

伊藤 標本で偉大な先輩の名前をみた。いかに大事な財産かと思った。

後藤 「野杜の匠」とは違うやり方と思ったけど、それぞれ特徴あって面白い。千ヶ滝とタリアセンの植物が似ていた。

渋谷 きれいに出来ていて、額に入れて飾りたいと思うほど、感動した。

山口 貴重な機会だった。素晴らしい。続けてこられた情熱を感じた。

志甫 自分でも作れるかもしれないと思った。

須永 （2011年に）津田先生の標本作成の説明を聞いたことがあったが、自分では作らなかった。すごくきれいに残っていて驚いた。

今城 秋に家の周りのシダ標本を作ってみた。

お近くの植物標本を作ってみては。

[事務局]

参加してみませんか！

2025年「モニタリング1000里地調査」を振り返って



フデリンドウ



トチバニンジンの実



アケボノソウ

2025年度からモニ1000を担当させていただくことになりました。モニ1000の面白さは、同じ場所で植物たちの月ごとの変化を観察できる点にあります。

調査地である軽井沢タリアセンには、絶滅危惧種を含む多くの野草が生育する野草エリアがあり、訪れるたびに新たな発見があります。特に2025年の調査では、植物の知識を有する軽井沢タリアセンの有能なスタッフが加わってくださり、新しい植物や、これまで見逃していたかもしれない植物を見つけることができました。

前年に鬱蒼としていたエリアの樹木を、津

田先生が一部伐採したことで、眠っていた植物が芽を出し、新たな出会いにつながるという嬉しい出来事もありました。

また、調査に参加して下さったサクラソウ会議のメンバーの中には、昆虫や鳥類に詳しい方々もいらっしゃり、視野が大きく広がりました。

調査は4月～10月の間、朝9時～12時頃まで、月に一度の実施ですが、毎年顔を見せてくれる植物たちとの再会は、いつもワクワクするひとときです。植物の名前に詳しくなくても大丈夫。その場のメンバーと特徴を探しながら特定していく過程もまた楽しいものです。 [カトラーめぐみ]

2025.9/28

「谷津ミュージアム」(千葉県我孫子市) 視察

■ 視察に至った経緯

谷津ミュージアムとは、我孫子市が緩やかな谷状の地形36.7haをそのまま保全し、かつての農村環境の復活を目指して2002年に整備を始めた施設である。

私たちは軽井沢町の「みんなの力でつくるまち」支援事業に採択されて発地の自然観察会などを行ってきたが、その一環として先進地視察を盛り込んでいたのである。ミュージアムといいながら駐車場も公衆トイレもない一風変わった自然公園？というのが当初の私たちの認識であった。



作業小屋にて、前列左から 林和史さん、太田さん、後列左から 柳澤さん、伊藤良則、須永、笠間、石塚さん、伊藤恵子

■ 現地にて

軽井沢からは、自然観察会でお世話になっている石塚徹さん、発地在住の農業者である柳澤俊彦さんと私。東京から参加の3名の会員伊藤夫妻、笠間さんと上野で合流して現地に入った。9月末の見学日は好天で、ご案内くださった「あびこ谷津学校友の会」（以下友の会）では、稲刈りという一大イベントが行われていた。

市の所有する作業小屋で林和史代表と二人の会員から実状を聴いているときに笑顔で手を振りながら帰路につく家族連れの子供がいたが、東京から稲刈りに参加されたのだとか。会員ではなくゆるい会員制度の「やつともサポーターズ」であることがあとでわかった。米・野菜作りや収穫体験まで人気の活動で、ライン公式アカウントが200名を超えているそうだ。

小屋で持参の弁当を食べた後は現地の視察、観察。中央を流れる水路に沿って歩くと、刈り取られた稲がはげかけされた無農薬米の田んぼの周囲はヨシなどが生い茂る耕作放棄地の感じである。

友の会の活動は週2回木曜と日曜の午前中とのことだが、草刈りが中心で、無農薬米や野菜作りなども行っている。サポーターズの多さに比べ正会員は41名で、実質的に活動されているのは半数程度とお聞きした。自然遷移への対応として草刈りは常に実施しているが、猛暑で身の危険を感じることもあるという。農村環境の復活のためには農業者が不可欠だが、営農者は減り続け現在の3軒ほどの農家も生業としているわけではないようだ。

■ 施設を取り巻く環境など

すぐ南に位置する手賀沼の水源にもなっているエリアで、シカやイノシシはいないもののハクビシンやアライグマの食害がありキョンの侵入も近隣まで迫っている。植物では特定外来種のナガエツルノゲイトウやアレチウリが侵入し、驚異的な繁殖力のオオバナミズキンバイも手賀沼に生育している。

この厳しい環境下にあっても、友の会ではニホンアカガエルの卵塊調査やヘイケボタルの発生数調査を実施し、年2回の写真展も開催されている。移住された人々はミュージアムの貴重さを感じているが、周囲に緑が多いこともあって地元の方には感じてもらえていないというあたりは軽井沢にも共通する点かもしれない。

現地を案内いただく道すがら、「谷津」の上流部が隣のゴルフクラブに買収されてしまったと聞いて驚いた。全体面積の四分の一ほどの広さである。源頭部分がゴルフコースに改変されてしまえば、下流の自然への影響はどんな形となって現れるのだろうか。地域で活動する他のボランティア団体や我孫子市との連携が上手くいっておらず今後の大きな課題ともお聞きした。数々の厳しい条件があるにもかかわらず友の会が活動を継続されている姿に感銘を覚えた。